

平沢復興大臣岩手県訪問記者会見録

(令和2年10月14日(水)16:55～17:00於)道の駅高田松原セミナー室)

1. 発言要旨

お疲れ様です。復興大臣の平沢勝栄でございます。

今日は、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、そして最後に陸前高田市をそれぞれ訪問させていただきまして、市長さん町長さん等の皆様からいろいろと復興の状況について御意見をいただいたところでございます。引き続き、私としては現場主義を徹底して、被災者に寄り添いながら、一日も早い被災地の復興に向けて全力で取り組んでいきたいということで考えております。

私のほうからは以上でございます。御質問があれば。

2. 質疑応答

(問) 防集の移転元地の関係なんですが、今回の概算要求で、国のほうで防集の移転元地の活用については、計画づくりとかノウハウ共有といったソフト面のメニューというのも入られているようなんですが、来年度以降、復興交付金がなくなって、土地の整備とか、そういったハード面というのがどうなるんだという心配をする声が自治体からあるんですが、そういった部分を来年度以降、国としてどのように対応するか教えてください。

(答) 今回、首長さんからいろいろお話を伺いますと、ハード面はほぼ終わったという声が強いですけれども、今の御質問でありますように、ハード面でもまだ残ったところもありますし、当然のことながらハード面は全く終わりということではなくて、引き続き残って、継続しなければならぬものについては、私たちは、もちろん年度内に終えてもらうのがいいんですけれども、年度内に終えることができなかつたものについては、引き続きの支援をさせていただきたいということで考えております。

(問) 具体的にどのような形で、来年度以降財源措置をしていくかというお考えはありますか。

(答) 財源措置は、これはいろんな方法で考えていきたいと思っております。ともかく、地域の皆さんの御要望をしっかりと受け止めて、その御要望に沿えるように最大限努力していきたいということで考えております。

(問) 今日、就任後初めて岩手県沿岸の被災地を回られました。駆け足になったかもしれませんが、各市、各地6カ所ですよね、陸前高田をご覧になって、大臣のおっしゃっていた復興のまちづくりというのは、元の町より住みやすく、安心して、外部からも移住者が来るような町を目指すという、そのような兆しというの

は、ご覧になってお感じになりましたか。

(答) 今日6カ所回らせていただいて、もちろんこれで今日は御挨拶、そしてあと非常に限られた時間の中でいろいろ御要望を承るといふことなんで、もっともっと詰めていかなければいけないなと思いますけれども、まだまだ今日の感じでは、やることがいっぱいあるなど。それは自治体のほうにもそれぞれ努力してもらわなきゃなりませんけれども、私どもも、もちろん先ほどの御質問とも関係しますけれども、私たちとしてもこれで終わりということでは全くなくて、まだまだこれからしっかりやることが山積しているなど、そういったことを痛感したところでございます。いずれにしる、各自治体で首長さん初め皆さん方は一生懸命頑張っていますので、そういった頑張りに応えられるように、私たちは国のほうから全力で支援させていただきたいということで考えております。

(問) 県内沿岸を初めて回られたということですが、各地で共通して見られた課題はどんなところだと大臣はお感じになりましたか。

(答) 共通して御要望として出たのは、被災に遭われた方々、10年近くたちまして、今一番大事なことは、心のケア、そういった人に対する要は心理的なサポート、これが大事なんで、こういった面で国の支援をよろしくお願いしたいと、こういうことでございまして。これは私どももそのとおりで受け止めておりまして、私どもとしてはそういったいわばコミュニティづくりとか、あるいは心理的ないろんな心のケア、こういったことについて、全力で、いろんな形で応援していきたいということで考えております。

(以 上)